

慶應義塾大学工学部山岳部(KSTAC)OB会 2024年夏山「穂高2024」  
剣御前・立山登山記録

1. 場所: 北アルプス 剣御前・立山
2. 期日: 2024年7月24日(水)～7月28日(日)
3. メンバー: 3名

          宍戸 俊雅 (20M)  
          小林 武夫 (29I)  
L.      伊藤 孝 (31E)

4. 日程

7月24日(水)          宍戸・小林:新宿(8:00)→信濃大町(11:16～11:35)→扇沢(12:15)  
入山 雨              伊藤:明大前(7:00)→安曇野IC(9:30)→扇沢(10:50)  
                      扇沢(12:30)→室堂(14:30～14:40)→立て(15:30～15:40)→雷鳥沢テント場  
                      (15:50)テント泊

7月25日(木)          雷鳥沢(6:00)→室堂分岐(6:50～7:00)→立て(7:50～8:00)→一ノ越(8:35～9:05)風  
外出1日目 雨          雨のため登頂中止→室堂(10:15～12:15)→雷鳥沢(13:00)テント泊

7月26日(金)          雷鳥沢(6:00)→新室堂乗越先(6:45～6:55)→立て(8:00～8:10)→別山乗越(9:10～  
外出2日目 曇り          9:35)→剣御前(10:20～11:55)→別山乗越(12:30～12:55)→新室堂乗越手前  
                      (13:35～13:45)→立て(14:30～15:05)→雷鳥沢(15:25)テント泊

7月27日(土)          雷鳥沢(6:30)→立て(7:25～7:40)→室堂(8:00～8:15)→扇沢(9:50～10:00)→松本  
下山 晴              IC(12:00)→沢渡(13:00～13:30)→小梨平(14:20)

7月28日(日)          小梨平(9:30)→帰宅

5. 感想

(宍戸)

剣・立山は上高地から遠いので、前山行での発想は今まで無かったのですが、伊藤さんのプランで、65年ぶりに立山周辺を楽しむことが出来ました。テントで3泊と言うのも何十年ぶりで、昔を思い出しながら準備にかなり時間が掛かりました。65年まえの面影を求めるのは無理ですが、黒部湖周辺の観光地化にはがっかりしましたが、テント場は四方を雪渓が残る山々と溪流に囲まれて快適でした。初日は悪天候で雄山まで行けず残念でしたが、二日目の剣御前は大満足でした。高齢者を同行していただいた小林さんと伊藤さんに感謝・感謝です。

(小林)

計画、同行頂いた伊藤さん、宍戸さんありがとうございました。久々に剣岳山域に来て剣御前に登ることが出来良かったです。前半は雨、後半は曇り時々晴れのなか、剣御前登山は晴れ間に恵まれ登ることが出来ました。山頂から剣山頂見ようと一時間半粘りましたが見る事が出来なかったのですが、おもしろかったです。剣御前からの剣沢や八つ峰、別山尾根、大日岳の景観は良かったです。体力的に体の衰えを感じた山行です。お二人には大変ご迷惑をかけてしまいました。いろいろフォローありがとうございました。

(伊藤)

今までお盆の時期に3回1人で行ったことがある雷鳥沢にKSTAC夏山で皆様と登りたく、何人かにメールでお誘いしました。樋口さんが前日に体調不良のため不参加になり、最終的に大先輩の宍戸さん、2年上の小林さん、伊藤の3人の山行になった。入山、外出1日目は雨、外出2日目は曇りとなり剣御前に初めて登ることができた。剣御前から八つ峰、早月尾根は見えるが、肝心の剣岳のピークには雲がかかって1時間半粘ったが姿を見せてくれなかった。現役時代の剣の夏合宿は2年の時に小林さんがリーダーで二股で行い、4年の時に内蔵助平で立山東面で行っている。剣岳東面の硬い岩登り、剣岳西面東大谷の崩れ易い岩登り、立山東面のブッシュがらみの岩登りと各々の特徴を持った岩登りが懐かしい。また初冬合宿で早月尾根から剣岳に行ったが、白銀の美しい雪稜が今でも臉に焼き付いている。今回は最後日の下山の時にミクリガ池手前で剣岳のピークを見ることができたが、尾根越しの剣岳で眼前の迫力は味わえなかった。またの機会に再トライしたいと思う。宍戸さん、小林さん有難うございました。



剣御前頂上にて



別山乗越・剣御前小屋にて



剣御前からハツ峰



ミクリガ池から早月尾根・劔岳



雷鳥沢テント場